

平成24年度第11回教育研究評議会議事要旨

日時 平成25年2月22日（金）15時31分～16時46分
場所 大学本部2階大会議室
出席者 佛淵学長，瀨口理事，中島理事，福本文化教育学部長，濱崎医学部長，藤田農学部長，稲岡附属図書館長，遠藤教養教育運営機構長，後藤医学部附属病院副病院長，甲斐評議員，畑山評議員，齋藤評議員，中島評議員，大島評議員
欠席者 岩本理事，宮崎理事，平地経済学部長，林田工学系研究科長，門出海洋エネルギー研究センター長
陪席者 川上監事，増子学長補佐，五十嵐全学教育機構准教授他

○ 審議事項

1. 佐賀大学経済学部の改組に伴う関係規則等の一部改正について
総務課長から，佐賀大学経済学部の改組に伴い，国立大学法人佐賀大学基本規則及び国立大学法人佐賀大学教員組織規則について所要の改正を行うものであり，審議いただきたい旨の発言があり，審議の結果，了承された。
2. 佐賀大学学則の一部改正について
教務課長から，経済学部の改組，医学部医学科の1年次及び2年次の在学年限の見直し及び他の大学又は短期大学における授業科目の履修に関する条文の整備に伴い所要の改正を行うものであり，審議いただきたい旨の発言があり，審議の結果，了承された。
3. 佐賀大学学士課程における教育の質保証に関する方針（案）及び佐賀大学大学院課程における教育の質保証に関する方針（案）について
教務課長から，佐賀大学における教育の内部質保証体制の整備を図るため，学士課程及び大学院課程の教育の質保証の方針を定めるものであり，審議いただきたい旨の発言があった。
この件に関して，学長から，質保証に関する方針の文言については，制定の意図が正確に伝わるよう必要に応じて修正し，後日評議員には確認を取る旨の発言があり，所要の修正を行うことで了承された。
学長から3月19日の拡大役員懇談会，4月19日の教育研究評議会において，各学部における内部質保証に関して，ミッションの再定義における議論を踏まえて意見交換を行いたいという旨の発言があった。
4. 佐賀大学教養教育科目履修規程の全部改正について
教務課長から，平成25年4月1日から全学教育機構による教養教育が実施されることに伴い，佐賀大学教養教育科目履修規程の全部改正を行うものであり，審議いただきたい旨の発言があり，審議の結果，了承された。
5. 佐賀大学学部間共通教育科目履修規程の制定について
教務課長から，平成25年4月1日から全学教育機構による教養教育が実施さ

れることに伴い、同機構が開設する学部間共通教育科目の履修等について必要な事項を定めるため、この規程を制定するものであり、審議いただきたい旨の発言があり、審議の結果、了承された。

6. 佐賀大学における全学共通の教育プログラムに関する規程の一部改正について
教務課長から、平成25年4月1日から全学教育機構による教養教育が実施されることに伴い、デジタル表現技術者養成プログラム等の全学共通の教育プログラム等について所要の改正を行うものであり、審議いただきたい旨の発言があり、審議の結果、了承された。

○ 報告事項

1. 平成24年度政府補正予算案（佐賀大学関係）について
財務課長から、既に報告済みの平成24年度政府補正予算案について、今回、復興関連事業対象予定事業として、新たに4件（約6億円）が追加予定である旨の報告があった。
2. 平成25年度国立大学法人佐賀大学運営費交付金予定額（政府案）等の概要について
財務課長から、平成25年度の本学の運営費交付金予定額について、主な増減の要因並びに国立大学改革強化推進補助金及び大学教育研究基盤強化促進費の説明、また、運営費交付金対象事業主要事項一覧の採択状況等の報告があった。
3. 全学委員会等の審議状況報告について
全学委員会等の審議状況について、資料確認により報告があった。

○ 意見交換

1. 産学・地域連携による社会貢献戦略について
中島理事から、大学改革実行プランで示されたとおり、地域再生の核となる大学づくりに取り組む必要があるとの認識から、今回は社会貢献、産学・地域連携といった観点を中心に意見交換を行いたい旨の発言があった。
また本学の産学・地域連携機構においても、産学連携部門、地域連携部門、知財戦略・技術移転部門の3部門を設置し、学内外の関係機関と連携体制を構築して産学・地域連携を推進していること、そして本学におけるCOC（Center of Community）構想を具体化するため、大学が地域の課題解決の中核的役割を果たすこと、大学が社会の変革のエンジンとして地域再生の主要な役割を果たすセンターとなることを目指している等の説明があった。また、具体的には佐賀県における産学官包括連携協定事業に新たなリーディング事業を設置したこと、エクステンション教育（生涯学習）を推進していること、ボランティア等の学生による地域連携活動を支援していること、医工食連携による地域企業との共同研究等が実施されていること等の説明があった。
次いで五十嵐全学教育機構准教授（産学・地域連携機構地域連携部門長）から、地域貢献に特化したランキングとして日経グローバル「全国大学の地域貢献度ラ

ンキング」があり、本学はある程度の評価を受けていること、ただし、評価項目に地域貢献に関連する学部学科等の設置が挙げられているが、この点は本学の弱点であること、また学生ボランティアの支援体制が挙げられているが、本学においては、学生ボランティアの実態の把握から不足しているため、今後情報収集・広報体制の整備を行い、教育室等との連携を強化しながら対応していきたいという旨の補足説明があった。

学長から、実施していることが正当に評価されること、可視化されることが必要である旨の発言があった。また、学生ボランティアについては、今後、これまで以上の支援が必要であるという旨の発言があった。

また、学長から、産学連携というところと理工・農・医学系の分野を想像しがちであるが、本学の文系分野の教員が持つ人脈は非常に重要であり、積極的に関わっていただきたい旨の発言があった。

○ その他

・国際リニアコライダー構想について

学長から、本構想の候補地である佐賀県背振山地への誘致が実現すれば、福岡県及び佐賀県に多くの海外の技術者が訪れ、国際都市が形成されることになり、学術研究の推進だけでなく、言語、文化や芸術等の大きな波及効果が期待できるところであるため、全学的に協力していきたいという旨の発言があった。

・農学部長の退任挨拶について

平成24年度最後の開催となる第12回教育研究評議会に欠席する農学部長から、退任の挨拶があり、今後も佐賀大学の発展のため協力していきたいという旨の発言があった。

以上